

第19回北星・原発問題講演会<メモ>

講演日：2015/05/22 (Fri. 18:00-20:00)

講演者：小山内 孝 さん

(しらかば福祉会 しらかば保育園 理事長)

テーマ「全く必要なくなった核燃料サイクル ～危険になっている再処理工場と高レベル放射性廃棄物～」

講演で話したかったこと

講演の翌日の朝（5月23日）、宿泊先のホテル・ロビーで、講演を振りかえりながらお話しを伺い、メモもいただきました。講演で話したかったことの要旨は以下のとおりです。

1. 核燃料サイクルは、日本の場合、いくつもの再処理工場が必要になる。
1995年に起こった「もんじゅ事故」と「大間の新型転換炉（ATR）中止」で核燃料リサイクルは完全に破綻した。国内で他に再処理工場を受け入れる自治体は現れないだろう。
2. 日本の原子力発電は、綱渡りの管理状態である。シビアアクシデント（過酷レベル事故）は、地震がなくても起こる危険性がある。
3. 六ヶ所再処理工場は、(1)高レベル放射性廃液貯蔵槽、(2)ガラス固化体の一時貯蔵施設、(3)3000トンの使用済み核燃料でプールは満杯。このままでは大地震が起これると危険。
実際、2011年3月11日の大地震の時、工場では長時間停電のためガラス固化体の温度が上昇し、溶ける直前という事態になった。
4. 経済的には電源三法と電気料金制度で、国民負担は43兆円に達している。
5. 使用済み核燃料を再処理したプルトニウム（ウランと混ぜてプルサーマルとして使う予定）は使いにくい。プルトニウムは核兵器の原料であり、日本は国際的にも利用目的を示す責任がある。

注（世話人）プルトニウムの保有問題、核燃料リサイクルのコストについては、衆議院議員 河野太郎の主張・政策「再処理工場の稼働に反対する」をご覧ください。

文責：世話人（片山）